

# 公園内で見られる植物

写真は8月9日(土)  
自然観察会で見られた  
植物です



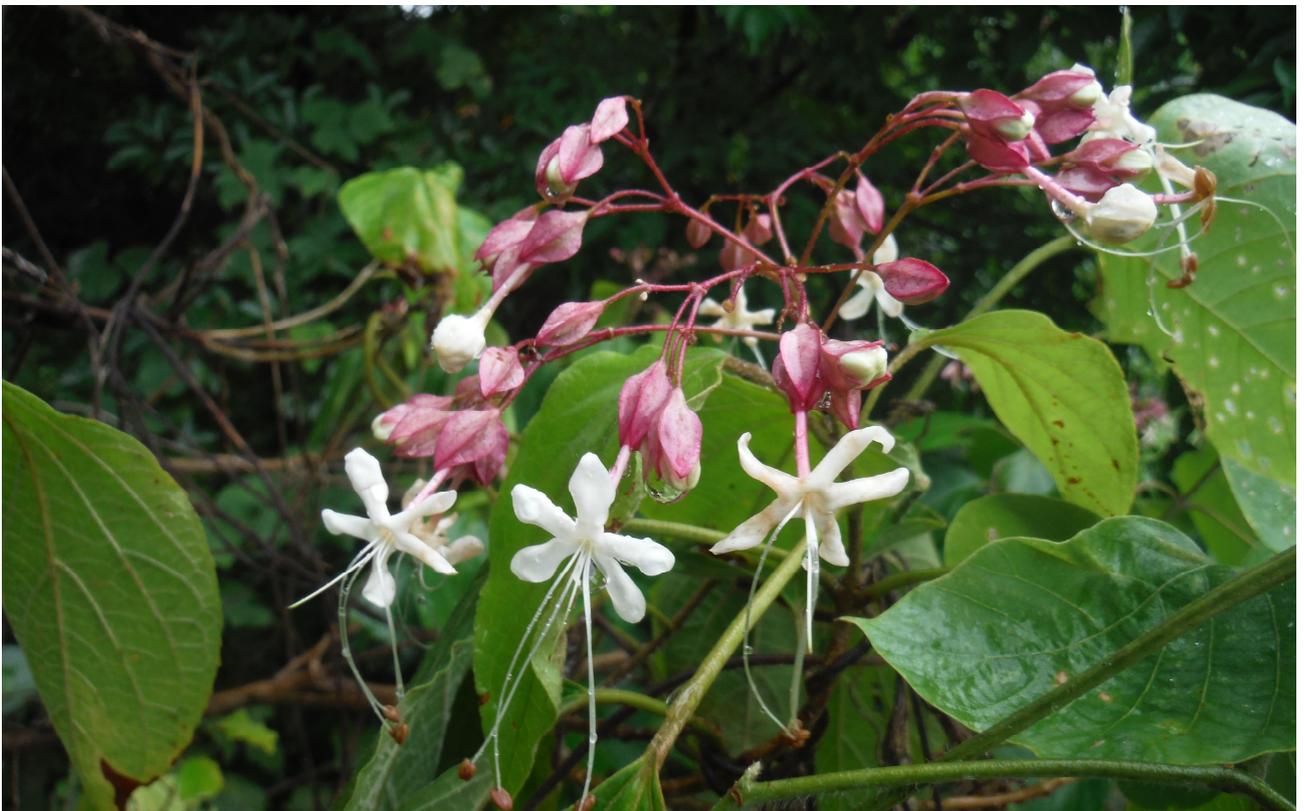
カマツカ (バラ科)

果実/梨のような形で梨のような味がする。10~11月頃に赤く熟す。  
(どこにでもある木だが、花は清楚でうつくしい: 4~6月)



クロキ (ハイノキ科)

この木を燃やした灰を染物に使った。10～12月に実が紫黒色に熟す。



クサギ (クマツヅラ科)

花／7月下旬から9月頃、かぐわしい香りのする、白い可愛い花を多数咲かせる。  
枝や葉をちぎると強い臭気があることからこの名前がついた。



コナラ（ブナ科）

第3駐車場トイレの上の鉄塔近くのコナラの木がナラ枯れしている。  
コナラはクヌギと並んで、雑木林を代表する樹種で、森林公園にも多く、かつては薪用として繰り返し伐採されていたが、今では使われなくなった大木が、このような状態をまねく事になってきた。



タラノキ（ウコギ科）

花／8～9月上旬。ヤツデによく似た実を付けるのは、同じ仲間だから。



カラスザンショウ (ミカン科)

花／サンショウに似ているがサンショウより葉も木も大きい。花の時期がサンショウと違う。  
あまり利用もしないのでカラスの名を付けたという説や、種をカラスが食べるのでカラスの名がついてという説がある。



イヌザンショウ (ミカン科)

サンショウは刺が対にでるけれど、イヌザンショウは互い違いに刺が出る。  
多少、サンショウに似た香りがする事から間違えて食する事があったようだ。  
サンショウと違い食欲をそそる強い香りは無い。



アンズタケ (アンズタケ科)

きれいな杏色をしている。甘い良い香りがする。

フランスでは料理の素材 (ジロール) として日本の物より大形で、あんずの香りもはるかに強いものが食べられている。



チチタケ (ベニタケ科)

傷をつけると白い液が出る。ポタージュや煮込みの材料に適しているが、食感はぼそぼそしていて、あまりおいしくはない。加熱すると癖のある匂いがする。